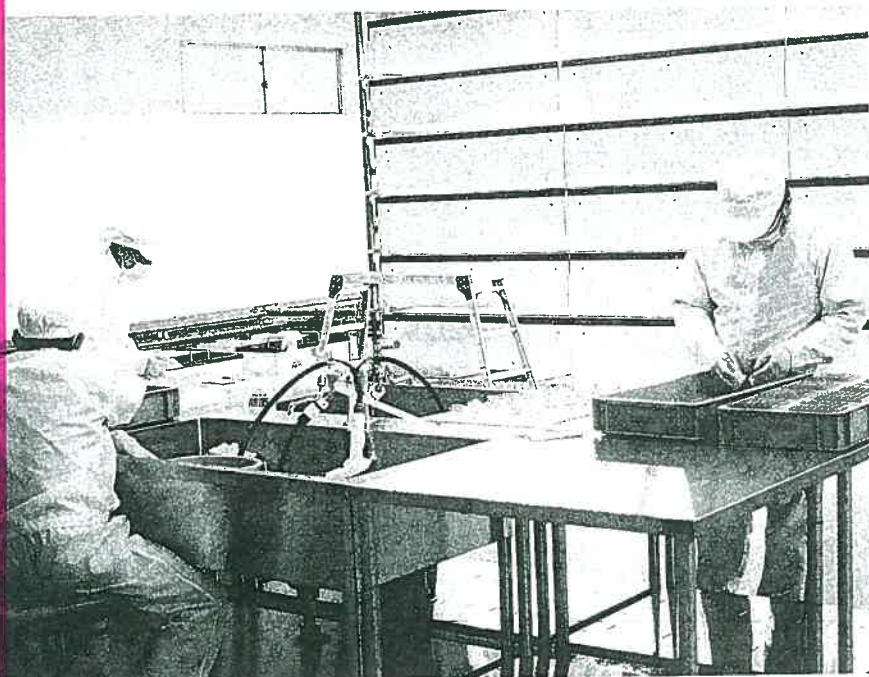


野菜工場 障害者就労先に



野菜工場で種を植える作業に取り組む2人の利用者。職員（左奥）のサポートを受けながら、真剣な表情で働く（高崎市で）

高崎のNPO法人

高崎市のNPO法人「ソーシャルハウス」が、障害者の働く場として室内で栽培・収穫する野菜工場を運営し、注目されている。県内初の取り組みで、障害者の就労に多い単純作業ではなく、野菜を育てることで、やりがいを感じながら働けるのが特徴だ。県内のスーパーなどに販路も広がっている。

同法人の滝沢啓理理事長（45）は市内の制御盤設備メーカー「成電工業」の社長。高崎市内に購入した土地に今年6月、野菜工場を開設し、

やりがいを感じ「真の自立に」

障害者法定雇用 52%達成 県内企業

群馬労働局は、県内の障害者の雇用状況（6月1日現在）を発表した。法定雇用率（2%）を達成した県内企業の割合は52.3%で、前年を0.7ポイント上回った。全国平均（47.2%）を上回ったが、都道府県別の順位は前年より7位低下して30位だった。

調査は従業員50人以上の1333社を対象に行われた。1333社の全従業員に占める障害者の割合を示す「実雇用率」は1.80%で、前年を0.01ポイント上回った。だが全

国平均（1.88%）を下回り、都道府県別の順位も前年より13位下がり46位となった。

公的機関の法定雇用率（2.3%）が未達成だったのは藤岡市と板倉町。藤岡市は2人、板倉町は1人不足していた。

群馬労働局は「理解は徐々に進んできている。未達成の事業者への指導を徹底したい」とし、啓発のための大規模なフォーラムの開催などを検討するという。

知的障害者2人が働いている。栽培しているのはレタスやベビーリーフなど。種まきから育成、収穫、包装まで全ての工程を障害者が行う。スーパーで1袋200円で販売している。

県内の就労施設では、工賃が月1万2000～1万3000円程度のところが多い。ソーシャルハウスでは2人にそれぞれ月約2万円を支払っている。さらに高い工賃を実現するため、1日400袋、年間3000万円の売り上げを目指している。

滝沢理事長は「店に並んだ時に、他の商品に見劣りしないものを作っていきたい。それが障害者の真の自立につながる」と話す。

来年は送迎バスを導入し、将来的には利用者を20人にまで増やす計画だ。また、利用者が共同生活を送るグループホームも運営する考えだ。

滝沢理事長は高崎市の他に、北海道や大阪府など3か所の障害者施設でも野菜工場の設立に携わった。北海道の工場は、天候に関係なく作業できる点が好評となっている。大阪府の工場はJ.Rの高架下に造った。野菜工場を持つ障害者の就労施設は、全国に約30か所あり、広がりを見せているという。